

令和6年度 事業報告

社 会 福 祉 法 人 天 光 会
特別養護老人ホーム恵光園シャイニー中央
ショートステイ恵光園シャイニー中央
小規模多機能型居宅介護「ほとりの家」

令和6年度 特別養護老人ホーム恵光園シャイニー中央 事業報告

珊瑚ユニット目標

【介護のプロとしての意識を持つ～相手の立場に立った接遇、暮らしの提供～】

- ① 自分の言動、行動を見直しながら相手の立場になって物事を考え丁寧で明るい声掛けを意識して対応する。
- ② 委員会や研修で学んだ知識を共有・活用して、事故、感染予防や対策を速やかに実践していく。介護予防体操や口腔体操などを通して体を動かす事、話すことの楽しさ健康な暮らしを提供する。
- ③ ご利用者様の個性を生かし、一緒に作業する楽しさを体感して頂けるような暮らしに潤いをもたらすレクを実施する。

季節の移ろいをしっかり感じられるような食レク、工作作り、散歩などを毎月実施する。

珊瑚ユニット報告

- ① 相手の立場に立って考え声掛けすることが概ねできた。ただ、「物が無くなった！」と不安の訴えが強くあったご利用者様に対し、然るべき声掛け等の対応が不十分になってしまい、ご利用者様をさらに不安な状態にしてしまったこと、それに伴い職員も疲弊するような状態になってしまった。
- ② 委員会や研修で学んだことを皆で共有しながら切磋琢磨できた。
認知症の症状のあるご利用者様に対し、否定するような言動をとってしまった職員もあり、認識不足を感じた。
毎日の口腔ケア体操や介護予防体操を日課として行うことができ、「今日もそろそろ始まるな」とご利用者様に周知し楽しんでいただくことができた。
- ③ 毎月、季節に合わせた様々なレクを行い、おやつ作りや工作、植物園への外出など沢山の潤いを提供できた。ユニットの壁に思い出の写真を飾り思い出して楽しんでいただいたり、ユニット内を明るく飾ることも潤いとなった。

真珠ユニット目標

【チームワークと接遇意識の向上 意識・知識・技術のブラッシュアップ】

- ① ご利用者様が安心・安全・安楽な生活を営んでいけるよう、一人ひとりの「個性」「主体性」を尊重し、「おもてなし」を意識したケア・環境を提供する。
- ② 常にチームワークを意識し、相手を思いやり信頼する気持ちを持ち業務にあたり、サービスの質の向上を図る。
他職種とのリレーションシップを意識し情報共有を行い切磋琢磨し、よりよい介護サービスを提供する。
- ③ 得意分野を皆と共有しサービスの質を上げ、教育の母体となれるよう、能力の向上を目指す。

真珠ユニット報告

- ① ご利用者様に対する言葉遣いから見直したことで、接し方にも変化が生まれ大きな声を出して静止するような職員はいなくなり職員の笑顔も増えた。
職員主体になっていた個々のケアを見直し、初めは慣れない職員から不満の声が上がることもあったが、お客様主体で動いてみた時のご利用者様の表情や全体の活気が上がっていく様子を

見ることで納得し、積極的にケアの変更の提案ができるようになった。歩行器を使用し軽く歩く練習をすることで、他ご利用者様も「私も練習したい」と意欲につながるなど、お客様目線でケアを続けることで、ユニット内の雰囲気もよくなり明るくなった。

- ② チームワークは概ね良好ではあったが、何をどうしても水と油の職員がおり、どうにもならず、周りがやりにくい状態は継続していた。ただ、ご利用者様に影響がでるようなことはなかった。
- ③ 教育の母体という意識は持って業務にあたることはできたが、自分の知識が正しいという強い思いや、出来る限り多くの情報を教えてあげなくちゃという焦りのもとで新人に向き合ってしまう職員もいて、教育させる側の難しさを感じた。定期的に新人との時間をもち、気持ちのコントロールを行うことで、落ち着いて仕事に打ち込めるよう図らった。

水晶ユニット目標

【普通の生活を常に意識する～ご利用者様主体の介護の実践～】

- ① 居室担当者がご利用者様の状態や情報を把握する中心となり、ユニット職員と共有し希望に添えるような普通の生活を提供する。
- ② 職員が自らの長所を理解し向上できるように実践し、ご利用者様の普通の生活に活かす。
- ③ ご利用者様の価値を落とさない為に接遇を意識し、普通の生活を送って頂く。

水晶ユニット報告

- ① 入浴ではご利用者様の希望を聞き、その時間や日取りに合わせることが出来た。希望を聞きだしご利用者様に合わせた生活環境を、整えられることが出来た。希望が言えないようなご利用者様は、現状の ADL に合わせたような介助しか出来ておらずご利用者様の今までの人生や個性を含めたケアはしっかりと出来なかった。
- ② ほのぼののデータ活用などを用いて各ご利用者様に合った時間、パッドを使用していく事が出来た。職員の感性を生かした飾りつけなどでイベントを盛り上げる事が出来た。
- ③ 個人に配慮した申し送りでご利用者様のプライバシーの保護は出来たが、排泄介助の際などにプライバシーの配慮にかけた介助を行ってしまう場面も見られた。ユニット会議などで全体の注意として行っていく。

翡翠ユニット目標

【チームワークを高めサービスの質の向上 ご利用者様の意向に沿ったケアの実践】

- ① 接遇意識の向上
 - ・職員主体で物事を考えずご利用者様の立場に寄り添ったケアを行い心遣いや言葉遣い、態度を見直し適切な対応ができるようにする。(接遇マニュアルの徹底)
- ② 個別ケア
 - ・ご利用者様の一人ひとりの「普通の暮らし」を日々の関わりの中から汲み取り、職員間で共有し実践する。他部署とのリレーションシップを図り、サービスの質の向上を図る。
- ③ チームワークの構築
 - ・協力ユニットとの連携、協力体制の構築強化を行い勤務体制の見直しを行う。また情報の共

有をスムーズに的確に行い、ケアに反映できるように定期的にユニット会議にて見直しを行う。(各委員会や研修で学んだ事はユニット内に持ち帰り共有、また実施する)

翡翠ユニット報告

- ① 接遇マニュアルの徹底について言葉遣いや心遣いについて昨年度あまり達成できず今年度の目標にあげているが昨年に比べてユニット職員が色々な委員会の接遇に対しての取り組み等を通して意識づけができておりご利用者様に対する対応も丁寧に、また対応するご利用者様に合わせた言葉遣いや対応が出来るようになってきているも職員の中には業務に追われてしまい言葉遣いや対応がご利用者様の主体でなかったり、言葉尻は丁寧であるが口調が強くなってしまう事も見られた為今後も対応をしっかりと行えるようにし接遇マニュアルを徹底できるようにしてご利用者様主体のサービスを提供する。

また定期的にユニット会議を開催し各居室担当を中心に会議を進めるようにしてそれぞれ居室担当がご利用者様のケアの見直しや取り組み等を積極的に発言し会議をスムーズに行う事ができ限られた時間の中で職員間で情報の共有と検討ができています。新しい取り組みとしてはご利用者様の排尿、排便のパターンを知り排泄時間の検討を行う為ほのぼのの排泄の統計機能を使用し検討ができた事が良かった事と行っている排泄についての取り組みが実際にできている事が確認出来たため職員のやりがいや自身にもつながり次に繋げる事ができています。

- ② ご利用者様の「普通の暮らし」の提供という部分に対して日々のコミュニケーションの中要望や嗜好について汲み取り毎月の食レク等にいかす事ができたのでは思う。また食レクについては栄養褥瘡予防委員会でもご利用者様の希望にそった食レクの提供では「甘酒が飲みたい。」という希望があり提供する事ができ大変喜ばれている。今後も職員間でご利用者様の思いを共有し一つでも多くの希望を叶えてあげられるようにしていきたいと思う。他職種との連携について対応する職員にて伝え方の違いや一方的な考えを伝えてしまう事も後期はありユニットとしての意見として他部署の人からとしてはとらえられてしまい上手く連携が取れていない場面もあった為不十分さを感じる為ユニット間再度伝え方の部分に対してはご利用者様のケアにつながる所ではあるので気を付けていく。

- ③ 協力ユニットとの連携、協力体制の構築については今年度は職員の体調不良が続き自ユニットだけでは運営する事ができなくなってしまった為協力ユニットの力を借りて対応を行った。また構築まではいかないが協力体制の大切さをユニット職員は知る事ができるきっかけにはなった為これを機に体制を整え今後も継続出来るように両ユニットリーダーで調整を行い実施し来年度は何かあった際はスムーズにヘルプに入り対応できるようにしたい。また欠員状況時に協力ユニットだけではなく他ユニットからの協力もあり中々他のフロアと交流がなかった為良い交流のきっかけになりお互いに良い刺激を受けたと思う。

ユニット会議内では各委員会で持ち帰った事を会議内で共有し委員だけではなくユニット職員全員で検討や取り組みを行い協力が出来たと思う為今後も自分の委員会や居室担当だけではなくユニットとして皆で協力して取り組みや検討を行いチームワークを良くして確立しご利用者様のケアに活かしていく。

瑠璃ユニット目標

【「普通の生活」を把握～サービスの質の向上につなげる～】

- ① 個々のご利用者様の「普通の生活」を理解し日常や非日常で提供し接遇の向上を行う。
- ② 委員会や研修で得た知識をユニットや協力ユニット、他職種で共有し能力向上をサービスの質の向上に繋げる。
- ③ ユニットの職員の一員として、職員の個性や多様性、能力・知識を活かしてチームでサービスを提供する。

瑠璃ユニット報告

- ① 「普通の生活」の理解では、業務中や会議中に職員と把握の共有を行ったり「今までの生活がどうであったか」等、相談員から情報を聞いたりとし、極力日常の生活に繋がれるよう行った。
(浴槽に入る時間や理美容の際の髪型、食事の環境など)

非日常では、目の前で果物をカットし提供を行いビュッフェスタイルにし、焼き立てのパンケーキを召し上がって頂いたり中庭で焼き芋やスープ、焼き魚を召し上がって頂いた。

生活の中で他ユニットとのご利用者様の交流も目的としていたが、食事レクが主となり交流が行えなかった。

ご自身の意思が確認出来ないご利用者様が多かったが、表情や今までの様子、相談員を通したご家族様からの意見も今後は情報収集していきたい。

今年度はお看取りの対応の方が2名おり、うち1名は要望を細かく話して下さったので時間と人員が可能な限り応える事が出来た。要望を伝えられない方は、面会に来られたご家族様へ確認しいつも聞いていた音楽や、好みの食べ物を伺い提供出来た。

- ② 前期は委員が不在の事があり、委員会は代理や不参加な時期があった。後期では、委員会に参加できる事もあり排泄時間の見直し、皮膚の状況により陰部洗浄や入浴の際の洗い方を検討し対応出来た。

皮膚トラブルでは、医務へ相談し回診の際に塗布薬の調整を行えた。

身体虐待委員では、言葉遣いの見直し、挨拶を協力ユニット間でも意識して取り組み接遇の悪い職員が目立つような状況になった。

介助方法の見直しや確認は必要だと思う。職員同士で介助方法(移乗)の確認をし合えた。年度末、剥離や痣などの事故はゼロではないが、昨年度より減らす事が出来た。定期的に行いご利用者様の事故予防をしていきたい。委員会の働きに関しては、委員を中心とするが他ユニット職員への働きかけを各々にして行きたいと思う。

- ③ 職員の能力や個性については、予定していたよりも達成出来ていないと思う。今年度は、欠員状況や新人職員が多く、活かしきれていない。体調不良により入浴介助が出来なかった職員や腰痛(ヘルニア・ぎっくり腰)の職員がユニットから出てしまった。その際に、お互いに助け合い移乗を他職員が担い、その他の生活介助業務を行う事とし、チームでサービスを提供出来た事はあった。来年度は、少しでも凸凹を無くしチームの底上げをして行きたい。

琥珀ユニット目標

【「普通の生活」を把握～サービスの質の向上につなげる～】

- ① 個々のご利用者様の「普通の生活」を理解し日常や非日常で提供し接遇の向上を行う。
- ② 委員会や研修で得た知識をユニットや協力ユニット、他職種で共有し能力向上サービスの質の向上に繋げる。
- ③ ユニットの職員の一員として、職員の個性や多様性、能力・知識を活かしてチームでサービスを提供する。

琥珀ユニット報告

- ① 業務中や主にユニット会議で報告を受け共有することで個々のご利用者様の「普通の生活」の理解をし検討をした。職員が変わると介助する事を望まれる方がおり、統一までは出来ていないが日常を理解し個別ケアに努めた。

アンケートをもとに食事レクを考え実施。カップケーキに日頃食べる機会の少ない生の果物(メロンや)を提供できた。また秋には駐車場で焼き芋を実施季節のきのこやサンマを焼くなど非日常で季節を感じていただけるようなレクリエーションを実施した。焼き芋に関しては準備不足な点多かったが他職種の協力もあり事故なく終える事が出来た。

- ② 委員会で得た知識は委員を中心にユニット会議を通して伝える事が出来た。

研修に関しては人員不足があり、園内研修への参加が想定より出来ておらず、共有に関しても至らない部分があったように思える。

多職種の連携に関しては目標の1でも話した以外にも助けて頂いた部分が多くあった1年だった。

- ③ 職員の多様性や能力を活かしてのチームワークの構築は欠員状況の期間があり思ったようにおこなえなかった。欠勤が出た際や瑠璃での対応困難な際など協力し枝行いチームワークの構築は出来たと思う。

月華ユニット目標

【チームワークを高め、ご利用者様主体のケアの実現】

- ① ご利用者様一人ひとりの「普通の生活」を理解できるよう、日々の関わりの中で個々の要望等を汲み取り、ご利用者様個々に合った個別ケア・レクリエーション等を行っていく。
- ② 各委員会や園内研修等で得た知識をユニット会議等で共有し、職員一人ひとりの知識・能力の向上、多職種との関わりを積極的に持つことで様々な視点からのサービスの質の向上も図る。
- ③ 日々のご利用者様との関わり、業務の中で接遇を意識して取り組み、職員一人ひとりを互いに理解し、良いところを活かしたご利用者様目線のサービスを提供していく。

月華ユニット報告

- ・ 今年度、ユニット全体としての目標へ確実に歩みを進めることができたと感じる。チームワークの面においては、情報共有の意識が向上し、日々の業務における協力体制が確実に構築されてきた。これは、ケアの質の向上に不可欠な基盤となった。しかし、より質の高い連携を実現するためには、形式的な情報共有だけでなく、コミュニケーションの活性化や、それぞれの専門性を尊重し活かすための取り組みづくりが今後の課題である。

ご利用者様主体のケアの実現に向けては、個別ケアやレクリエーションにおいて、画一的な対応から個々のニーズに合わせた配慮が進んだ。しかし、更にご利用者様の主体性を尊重し、その人らしい「普通の生活」を支えるためには、表面的な要望だけでなく、より深いニーズを理解する必要がある。また、提供するサービスの選択肢を増やし、ご利用者様自身が主体的に選択できるような環境を整備していく必要がある。

総合的に見ると、今年度はユニット内のコミュニケーション改善と協力体制の基礎を築き、ご利用者様主体ケアへの意識を高めるという点で、一定の成果を上げることができた。しかし、チームワークを発揮し、ご利用者様一人ひとりのより深いニーズに応え、主体性を尊重した質の高いケアを提供するためには、多職種連携の更なる強化、職員の知識・技術の向上、ご利用者様の声を引き出し、ケアに反映させる組織づくりが不可欠である。

来年度はこれらの課題に焦点を当て、チーム一丸となって更なる成長を目指し、ご利用者様にとって最善のケアを提供していく必要がある。

- ① 職員一人ひとりが日々の関わりの中でご利用者様の細やかな要望や変化に意識を向け、積極的に情報共有する姿勢が定着した。その結果、多くの要望に対し、ケアマネジャーとの連携を図りながら、可能な範囲で迅速かつ柔軟に対応できた。

個別ケアにおいては、ご利用者様個々の生活歴や価値観、習慣などを考慮し、その人らしい「普通の生活」が継続できるよう努めた。具体的なケアの場面においても、画一的な介助ではなく、ご利用者様の主体性を尊重した声かけや介助方法を実践できた。

レクリエーション活動においても、季節感を取り入れた企画や、ご利用者様から要望の多かった物や関心に合わせた内容を取り入れるよう努めた。個々のご利用者様の状態や意向を把握しながら、無理なく楽しめるレクリエーションを提供できたと考える。反省点として、日常的な要望に対し比較的にスムーズに対応できたものの、ご利用者様のより深い願望やニーズを十分に汲み取れていない可能性があった。「本当に望んでいる事は何か」といった背景を理解するための対話等が十分ではなかったかもしれない。

個別ケアの実践においては、職員の経験や知識、意識によって質のばらつきが見られた可能性がある。季節に応じたレクリエーションは実施できたものの、内容がパターン化し、新鮮味に欠ける場面もあったかもしれない。より多彩な選択肢を提供し、ご利用者様の主体的な参加を促す工夫が求められる。また、レクリエーションの実施頻度や内容についても、更なる検討の余地がある。

- ② ユニット会議においては、各委員会や研修で得た知識について、担当者を中心に周知することができた。また、会議以外の場においても、必要に応じて相談や情報共有を行い、柔軟な対応を心がけることができた。職員一人ひとりの能力に応じた役割分担を意識した結果、個々の成長を促すことができたと考えられる。

多職種との連携については、積極的に関わることができた職員もいる一方で、一部の職員においては十分な連携が図れていない点も見られた。しかし、全体としては多職種との円滑な関係性を構築し、連携を図ることができたと考える。反省点として、ユニット会議での報告はできたものの、内容の深さや理解度には個人差が見られた。形式的な報告に留まってしまう、実践に繋がるような深い議

論や意見交換が不足していた可能性がある。一部の職員において、多職種との連携が不十分であった点は反省すべき点である。連携の必要性の認識不足や、コミュニケーションを取るきっかけや方法が不明確であったと考えられる。また、多職種との情報共有のタイミングや方法も、スムーズに行えるように改善の余地がある。

- ③ 委員会活動を通じて、ご利用者様、職員双方における挨拶や接遇の重要性を意識し、日々の業務に取り組むことができた。その結果、一定の効果が得られ、ユニット全体の意識向上に繋がったと感じている。また、職員がお互いを理解しようとする言動も見られ、日々のコミュニケーションの重要性を共有できた。しかし、一部の職員においては、接遇面において依然として課題が残る点も見受けられた。

反省点として、委員会を通じて接遇の重要性を周知し、一定の効果はあったものの、職員一人ひとりの意識への浸透度にはばらつきが見受けられた。表面的な理解に留まり、具体的な行動に移せていない職員もいる。個々の意識改革を促すための断続的な取り組みが必要である。日々のコミュニケーションの重要性は伝えたものの、職員間の相互理解を深めるための具体的な取り組みが不足していた。表面的な情報交換に留まり、個々の価値観や考え方、得意なことなどを深く理解するまでには至らなかった可能性がある。各職員の良いところを活かしたサービス提供を意識したものの、ユニットとして具体的に進めていく明確でなかった。結果として、個々の判断に委ねられる部分が多く、ユニット全体としての効果を最大限に引き出せていない可能性がある。

光華ユニット目標

【ご利用者様目線でのケアの実施とサービス向上】

- ① ご利用者様の要望や希望、役割を取り入れた食事の提供。
- ② 職員主体にならない排泄介助の実現
・専門的な知識や他職種との意見を踏まえ排泄介助方法を実施する。
- ③ 個々の役割を理解し個々を尊重したチームケアの実施。
- ④ 事故リスクマネジメントの共有を行いご利用者様目線での対応実施。

光華ユニット報告

- ① 定期的にはいかなかったが、食レクを企画する際にはご利用者様から希望を聞き取り職員・ご利用者様が一緒にメニューを決めて取り組める事が出来ていたと思う。作る過程においてもご利用者様も一緒に実施する機会を作る事ができ良かった。

普段の食事に関しては、ご利用者様の状態に応じた食事内容の変更等もこまめに出来ており、ご利用者様の希望も汲み取りながら対応できていたと思う。

- ② 毎月のユニット会議や日々の職員間での情報共有の中で、ご利用者様の排泄に関する情報をしっかりと共有・理解する事ができてきており、その方一人一人に合った排泄介助を実施する事が少しずつ出来ていたように感じる。

オムツ対応だった方が、トイレに行きたいとの希望があり、ご本人の気持ちと心身状態をしっかりと理解し、危険がないよう対応方法をユニット職員全員で共有し、実施することでトイレ誘導が出

来るようになったこともあり、今後もご利用者様の気持ちに寄り添ったケアが出来るよう心掛けていきたい。

- ③ 年度途中でユニットリーダーやユニット職員が変わる事があり、情報の共有や職員間のコミュニケーションが不充分になってしまうことがあった。しかし、ユニット会議の場や普段の業務の中で密に情報の共有やコミュニケーションをとることが出来るようになってきており、職員一人一人が自分の役割を少しずつ理解し、行動する事ができるようになってきていると思われる。

職員一人一人が自分の持っている知識や技術を生かし、その内容をユニット職員と共有していく事が出来るようになり、全員が協力して、チームとしてのケアの実施を意識しながら日々の業務を行う事が出来るようになってきている。今後もチームとして良いケアを提供していけるよう努めていく。

- ④ ユニット内で起こっている事故やヒヤリハットをユニット職員が確認しやすい環境を作ることによって、改めてご利用者様個々の状態や気を付けなければいけない事が把握しやすくなってきているように思う。ヒヤリハットが上がった内容や、ご利用者様のADL等の変化からケア方法の検討や変更を随時実施する事ができリスクマネジメントに対する考え方もユニット内で共有できてきている。ご利用者様目線での対応の実施についても、ご利用者様の普通の生活や思いなどを考え、職員本位にならないよう注意しながら、よりよい対応を考えることができています。

煌星ユニット目標

【お客様本位を意識したサービスの提供～チーム力を活かした柔軟かつ迅速なオーダーメイドケアの実現～】

- ① お客様目線での接遇の意識向上し、「普通の生活」の理解を深め、「その人らしく」暮らせる環境の提供。
- ② 職員一人ひとり委員会や研修で得た知識・技術を活かし、持っている能力を磨き多職種とのレーションシップを強化する。
- ③ ダイバーシティとインクルージョンによって、より強い組織づくりを体現する。

煌星ユニット報告

- ・ユニット全体を通して、職員一人ひとりが考え動く組織化ができた。
- ・業務の削減も取り組みとして昨年度同様に行っていき、日々の業務の中で職員間で自発的に意見を出し合い、オーダーメイドケアへの取り組みを行っていく事ができた。
- ・昨年の反省点として、レクや掲示物と言ったところが出来ておらず、季節感をご利用者様に提供出来ていなかったが、年間通して華やかな掲示等が取り組めた。
- ・反省点としては、全てのご利用者様に対して、お客様本位で取り組むことができていなかったと感じる。適宜必要な所で話し合い個別ケアへの取り組みを行っていたがお客様のニーズや感情の所を逃さない、諦めないという事が出来ていたかという自信をもっていう事が出来ないのではないかと考えられる。

今後の課題として、改めてお客様本位という部分での考え方等を落とし込む必要があると考えている。

- ① 接遇の意識に関しては、今後も大いに課題があると考えられる。接遇がしっかりと出来ている職員とそうでない職員とで明確に分かれる。

ご利用様が諦める事のないよう「その人らしく」暮らせるという事に重きを置きご利用様の状態変化等が多い一年であったように思われるが、ADL 低下を最小限へと意識し、残存機能も残しつつご利用様に無理のない範囲で「歩きたい」とご要望がある方に対しては、状態の良い時には手引き歩行で歩いて頂く様、対応として行った。

ご要望が伝えられるご利用様に限っての事となっており、日々のご利用者様との関わり方や些細な事も見逃さない対応力をこれまで以上に各職員が身につける必要があると考えられ、課題として残る結果であった。

- ② 各委員会を得た知識等で得た事に関しては、ユニット内に反映されていたかは全てではないと感じている。

多職種とのリレーションシップが一番行えたのは栄養褥瘡での取り組みであった。経口摂取不可であったご利用者様に対して、日々のコミュニケーションから医務課・栄養課・ケアマネと話し合う場を設けるなどし、経口摂取へとなるまでの取り組みとして行っていく事が出来た。ご利用者様の強い意志からくるものであるし日々の状態観察、多職種とのリレーションシップを行えたからこそその結果であると思われる。

- ③ 新年度早々にて退職者1名を出す結果となってしまった。復職者1名、入職者1名となり順次トレーニングを行っていく。

今年度からは、リーダーが主としてトレーニングを行わず主軸となる職員で対応する。適宜進捗状況を確認し進める。必要であれば面談を取り入れる。今年度では、「より強い組織づくり」を目標として掲げ、昨年度の運営方法から転換し各職員が考えられるようなアプローチを年間通して行う。会議等の意見出しや日常的な業務の中で、コミュニケーションを図り一人ひとりが常に考え動けるようにと意識して取り組む。

8～10月の間、他ユニットへのヘルプ対応を行う。瑠璃/琥珀ユニットにはリーダーが、翡翠ユニットには各職員が主に行う。ヘルプ対応の間、月の半分以上をリーダーが不在となる事があったが、各職員が考え動く事が出来るようになっていた事で、業務が滞りなく行っていく事が出来た。不在時には、適宜報告が上がってきたことで、大きな問題を生むことなくユニット運営を行っていく事が出来た。各職員が協力してくれたことで成り立ったことが大きい。

陽光ユニット目標

【お客様本位を意識したサービスの提供～ チーム力を活かした柔軟かつ迅速なオーダーメイドケアの実現 ～】

- ① お客様目線での接遇の意識向上し「普通の生活」の理解を深め、「その人らしく」暮らせる環境の提供。
- ② 職員一人ひとり委員会や研修で得た知識・技術を活かし、持っている能力を磨き多職種とのリレーションシップを強化する。
- ③ ダイバーシティとインクルージョンによって、より強い組織づくりを体現する。

陽光ユニット報告

- ・新卒職員も入り、6月からはユニットリーダーも変わり、退職もあり変化の多い1年だった。
- ・新人育成には時間を要しているが他の職員の理解や協力もあり、続ける事ができていた。

- ・ユニットのご利用者様にはそれぞれの状態にあった食事提供やその他配慮を行い個々のニーズにあった生活をしていただく事も出来たと思う。
- ・各種委員会ではそれぞれが得た知識や情報を合同ユニット会議等の場で発信しようとする姿が見られた。
- ・協力ユニット体制は維持することが出来ていた為、他ユニットへのヘルプなどに行った際もほぼ残業することなく運営できた。
- ・多職種との連携では伝え方、話し方などでの誤解が生じる事もあり、上手くいかないこともあった。
- ・ユニットの整理整頓を意識する職員が増え、清潔さを保っていくことが出来ていたと思う。

- ① 各職員がご利用者様への個別ケアを意識し、食事形態であったりご自身専用の食具をプレゼント、その他生活の場で必要な物は何か考え提供する動きがみられた。一方では居室担当になっているご利用者様の部屋の整理整頓などが滞ってしまう場面もあり、シーツ交換などを他の職員が負担して行うといったこともあった。

ユニット会議の場ではご利用者様に対する意見が出るもののマイノリティであるものへ対しての配慮はあまりなく「却下されてしまうから」などと発言を控えてしまうこともあった。

ご利用者様主体で過ごしやすい環境を皆で考えていくことや、普通の生活に少しでも近づけるような心掛けはできていたと思う。

次年度はその為にもっと具体的にどのような事をするべきなのか、どのような事がそれに繋がっていくのかを皆で話共有することができればより良いユニットになっていくと感じた。

- ② 各委員会で行っている取り組みの周知は行えていたが、中には理解せずに行っている職員もみられた。

接遇やマナーの観点で行くと職員間での言葉遣いであったり、態度であったりと問題が発生することが見られた。

他職種こそ日々接する機会は少ないためコミュニケーションには気を付けていかないといけないう事をユニット職員には示していきたい。

- ③ 新卒職員も入り協力ユニット全体で育成を取り組んでいった。その点での連携は上手くいったと思われそれぞれの負担やストレスは分散できていた。上手く伝わらない事や理解の範囲で各職員が悩んでいることが多くあったが、それを個々が自分なりに受け入れ関わっていくことができ、関わり方や指導の仕方を見直したりして新卒職員の成長にも繋がっていた。個々の能力には差があることは理解しつつも、コミュニケーションであったり最低限とされるマナーであったりの価値観の差でぶつかることもあったが現状は落ち着き互いを受け入れるという段階にはこれたのかと思う。悪い所ばかり見るのではなく個々の良い所に目が行くようにユニットを運営する際には適材適所を意識して役割を与えていきたいと改めて感じた。

令和6年度 ほとりの家 事業報告

ほとりの家 ユニット目標

【ご利用者様に敬意を払い、一人ひとりに合わせたケアの実践「チームワークの強化」】

- ① ご利用者様が住み慣れた自宅で生活が続けられるよう、自立支援に向けたケアの実践

- ・個々にあったレクリエーションの企画
- ② ご利用者様を敬い尊厳を守る
 - ・上から目線にならない、命令口調はしない。行動を制限するような声掛けはしない。
- ③ 報・連・相を徹底し、チーム力を高め、職場内のコミュニケーションを円滑にする。

ほとりの家 ユニット報告

- ① ご利用者様を知る事に対しての情報共有シートの作成をしたが、記入したり、新規の利用者様がご利用開始した際のシートの作成などが十分にできず、職員間での情報共有が不十分だった。
レク会議など今まで出来ていなかったが、毎月、毎週とはいかないまでもスタッフ同士集まり、利用者様が楽しめるレクの話や、外出の話などが出来た。後半はスタッフの人数が少なく大変ではあったが、毎日のレクやイベントを企画し、利用者様から、「ほとりに行くのが楽しみ」という言葉を頂くことが出来た。年度末に撮りためていた写真をお見せし、来年度も行きたいところ、やってみたい事を利用者様と話をしていく事が出来、来年度の目標が出来た。
- ② 距離感が近いというもあるのか、友達言葉で話したり、説明が足らずに利用者様に不安な気持ちを抱かせてしまう事があった。生活リハビリとして、テーブル拭き、お盆拭き、洗濯物たたみ等をお願いしているが、言葉が足らず、命令しているように聞こえてしまう事もあったので、注意をしたい。スタッフ間でも話が出来るような環境作りをしていきたい。
- ③ バイタル測定、入浴介助など、役割分担しているスタッフ同士の連絡が上手くいかない事や、伝達ミス、訪問時に発見したことをケアマネや他のスタッフと連携、共有する事が出来ていない事が多く、ご家族様から指摘されてしまう事もあった。スタッフ不足により、ミスが目立つこともあり、口頭での伝達が多く、ミスが増えている原因と思われる。スタッフの変更や新規入職などもあり、コミュニケーション不足が目立ったように思う。ほとり会議、レク会議などを行い、職員間での伝達、スタッフの気持ちを理解できるようにしたい。

来年度も今回の目標と同じくして、連携強化に努めたい。

令和6年度 医務室 事業報告

医務室年間目標

【お客様主体の本質を理解し看護を展開する】

- ① 委員会や研修で知識を深め、他職種と連携し質の良い看護を実践する。
- ② 課題解決に向けて、チーム力を生かし取り組む。
- ③ お客様目線の接遇を意識する。

医務課実施報告

- ・今年度は2名の看護職員が入職したが、委員会や研修また医務課内で物事の考え方の落とし込みが出来たことで全体のチーム力を低下させることはなかった。医務課全員が同じ方向性で進めたことは評価できることだと感じている。
- ① 委員会や研修の参加は積極的で、決められた事柄を遵守しようとする姿もあり、業務内で他職種と連携するうえで知識を生かし、良いサービス提供出来ていた。
- ② 看護師1人ひとりが自主性をもち行動出来ていたと思う。自分に出来る事は何かを考えながら働き、課題に直面してもチーム力で解決できる部署作りを目指し達成出来ていたと思う。
- ③ 接遇に関しては、日々の関わりの中でお困りごとを確認し対応していたが、次年度に持ち越す部分

が多い状況。来年度は、面会の再開も検討されている為、ご家族様対応も含めた接遇対応を考えて行きたい。

医務課実績報告

【千葉在宅診療クリニック回診】

- ・入所者 80 名 第 1・3 水曜日 第 2・4 火曜日、1 週に 1～3 ユニット(20～30 名)実施。
- ・ロングショート 12 名 第 1 第 3 水曜日 1 週に 2 ユニット実施。2 回/月

【かない内科】

- ・ロングショート 8 名 第 1 第 3 月曜日 2 回/月

【千葉駅前スタークリニック皮膚科往診】

- ・入所様の状態により往診頻度が変わる 必要時診察依頼し、3 名/月

【千葉駅前スタークリニック精神科往診】

- ・毎月第 3 月曜日 4 名往診

【受診報告】長期・ショート含む

- ・受診 247 回

- 内 ①千葉在宅診療クリニック臨時回診 169 回
- ② かない内科臨時回診 4 回
- ③ 井上記念病院(提携医療機関) 26 回
- ④ その他医療機関 48 回

- ・入院者数 14 名 ・救急搬送数 12 名 ・お看取り対応 12 名 ・お看取り以外のご逝去 4 名
- ・新型コロナ陽性者数 2 名 ・インフルエンザ陽性者数 6 名

【処置人数】

- ・経管栄養 4 名 ・インスリン注射 2 名 ・血糖測定 2 名 ・膀胱留置カテーテル管理 5 名
- ・骨粗鬆症治療薬(ブラリア)皮下注 1 名 ・褥瘡(軽度) 3 名

【健康管理】

- ・ご利用者様インフルエンザ予防接種(82 名)R6 年 10 月に実施
- ・ご利用者様新型コロナワクチン接種 8 回目(58 名)R6 年 11 月実施

【園内研修】

- ・R6.4 月 緊急時の対応 ・R6.5 月 BCP・感染症・ガウンテクニック・食中毒
- ・R6.12 月 BCP・感染症(嘔吐物の処理)

令和6年度 栄養課 事業報告

栄養課年間目標

【食を通して健康の維持、増進を図る】

① 栄養ケアマネジメントの実施

・血液検査結果の他、体重の推移や喫食状況、生活状況等からご利用者様の状態を把握し、課題の早期発見に努める。

・他職種と連携し、ミールラウンドやケース会議等の機会を通じて問題解決のための検討を行う。

② 療養食加算の算定

- ・療養食加算算定の要件を理解し、適切に算定の提案ができるようにする。
 - ・療養食の対象となるご利用者様に速やかに適切な食事を提供し、状態の悪化を予防する。
- ③ 褥瘡ケアの質の向上
- ・ブレードンスケールの各項目の理解を深め、ご利用者様の状態を把握することに努める。
 - ・今まで委員会フォルダに入力していたブレードンスケールの数値をほのぼのに入力し、各部署での情報共有をしやすくすると共に、ケース会議や栄養褥瘡委員会での検討を行いやすくする。

栄養課事業報告書

- ① 血液検査・体重・喫食状況等の情報は、担当部署より情報の提供を受け適宜表に入力しとめた。
- 他職種と情報を共有し、ミールラウンドやケース会議等の機会を通じて対応を検討することができた。
- ② 療養食の対象となるご利用者様には適切な栄養量の食事を提供することができた。
- ご利用者様の身体状況に関する数値は把握できたが、一般的な基準値通りに判断できないことも多く、療養食の提案には中々繋がらなかった。
- ③ 研修を通じてブレードンスケールの各項目への理解を深めることができた。スケールの数値をほのぼのに入力し、各部署で状況を確認できるようにした。また、委員会で入力方法をユニット職員にも共有し、各自で入力・対応できるようにした。

令和6年度給与栄養目標量

エネルギー	蛋白質	脂質	カルシウム	鉄分	レチノール当量	ビタミン B1	ビタミン B2	ビタミン C	塩分
(kcal)	(g)	(g)	(mg)	(mg)	(μg)	(mg)	(mg)	(mg)	(g)
1600	60	50	600	6	550	1	1.1	85	7 未満

令和6年度荷重平均栄養所要量

	エネルギー	蛋白質	脂質	カルシウム	鉄分	レチノール当量	ビタミン B1	ビタミン B2	ビタミンC	塩分
	(kcal)	(g)	(g)	(mg)	(mg)	(μg)	(mg)	(mg)	(mg)	(g)
4月	1586	61.9	41.8	781.0	11.1	775.0	0.9	1.0	101.0	6.6
5月	1586	62.0	43.1	801.0	11.2	705.0	0.9	1.0	102.0	6.8
6月	1572	60.8	41.1	794.0	10.9	754.0	0.8	1.0	90.0	10.9
7月	1572	59.8	42.4	782.0	10.8	677.0	0.8	1.0	101.0	5.4
8月	1599	61.0	45.7	589.0	7.3	762.0	0.9	1.0	95.0	6.7
9月	1633	61.4	46.9	637.0	6.8	676.0	0.8	1.0	96.0	6.6
10月	1622	60.9	48.5	607.0	7.1	669.0	0.8	1.1	97.0	6.7
11月	1611	62.0	48.6	1003.0	8.6	854.0	1.7	1.9	101.0	6.8
12月	1602	60.8	47.3	960.0	8.5	820.0	1.6	1.8	121.0	6.7
1月	1619	61.4	48.8	1073.0	11.0	887.0	1.7	2.0	119.0	7.1
2月	1635	63.4	49.0	1159.0	11.4	814.0	1.6	2.0	106.0	7.1
3月	1632	62.6	49.5	1136.0	11.8	643.0	1.6	2.0	134.0	7.0
平均	1605.75	61.50	46.06	860.17	9.71	753.00	1.17	1.39	105.25	7.03

形態別喫食者

ロング(長期入所) 80 名

R7.3.31 時点

主食		副食		汁物		特別食	
形態	人数	形態	人数	形態	人数	形態	人数
米飯	29	常菜	12	常菜・一口大	34	経管栄養	3
軟飯	10	一口大	22	超キザミ	30	ゼリー	1
全粥	23			汁のみ	11	補助食品	1
ペースト	13	超キザミ	30				
		ペースト	11				

ショート(短期入所) 18 名

主食		副食		汁物		特別食	
形態	人数	形態	人数	形態	人数	形態	人数
米飯	10	常菜	1	常菜・一口大	14	経管栄養	0
軟飯	0	一口大	13	超キザミ	3		
全粥	6			汁のみ	1		
ペースト	2	超キザミ	3				
		ペースト	1				

小規模多機能 16 名

主食		副食		汁物		特別食	
形態	人数	形態	人数	形態	人数	形態	人数
米飯	16	常菜	14	常菜・一口大	16	訪問	0
軟飯	0	一口大	2	超キザミ	0	経管栄養	0
全粥	0			汁のみ	0		
ペースト	0	超キザミ	0				
		ペースト	0				

令和6年度行事食内容

		日付	メニュー
4月	行事食	4月2日	赤飯・天ぷら3種盛り・炊き合わせ・菜の花辛子和え・桜大根・お吸い物
	リクエスト	4月11日	(翡翠)御飯・天ぷら・すき焼き・ポテトサラダ・お吸い物・ようかん
5月	行事食	5月5日	えびピラフ・手作りハンバーグ・ナポリタン・シーザーサラダ・クラムチャウダー
	リクエスト		延期
6月	行事食	6月15日	五目御飯・天ぷら3種盛り・里芋の煮物・菜の花ピーナッツ和え・味噌汁
	リクエスト	6月6日	(月華)温うどん・唐揚げコロケ焼鮭・トマトサラダ・オレンジ
7月	特別食	7月1日	たいめし・豚の角煮と煮卵・卵豆腐の冷やしあんかけ・がんも煮物・粕汁 3種のケーキの盛り合わせ
	行事食	7月7日	御飯・星のハンバーグ&エビフライ・かぼちゃサラダ・そうめん汁
	行事食	7月24日	うなぎちらし・味噌田楽・オクラの生姜醤油和え・お吸い物
	リクエスト	7月4日	(光華)海苔巻き&いなり寿司・天ぷら・かぼちゃ煮物・サラダ・メロン
8月	特別食	8月15日	鮭ちらし寿司・なすの煮浸し・トマトサラダ・ハネージュメロン・すまし汁
	リクエスト	8月8日	(煌星)冷やし蕎麦・天ぷら3種盛り・茶碗蒸し・青菜わさび和え・アイスクリーム
9月	行事食	9月16日	太巻き&いなり寿司・天ぷら・筑前煮・ほうれん草菊花和え・甘酢生姜・お吸い物
	リクエスト	9月5日	(珊瑚)きのこと炊込み御飯・フライ盛り・豚汁・梨・ようかん
10月	行事食	10月31日	海老ピラフ・かぼちゃコロケ・マカロニサラダ・ミネストローネ・かぼちゃプリン
	リクエスト	10月10日	(真珠)栗御飯・焼き鮭・茶碗蒸し・つみれ汁・柿
11月	行事食	11月19日	ねぎとろ丼・味噌盛り・お吸い物
	リクエスト	11月7日	(陽光)ねぎとろ丼・鮭マヨチー焼&鯖塩焼・さつま芋甘辛煮・香の物・フルーツロール
12月	行事食	12月25日	バターライス・ハンバーグ・シーフードマリネ・ミネストローネ・ケーキ
	特別食	12月31日	年越し蕎麦
	リクエスト	12月5日	(琥珀)温蕎麦・天ぷら(海老・南瓜・かき揚げ)・胡瓜とカニの酢の物・どら焼き
1月	行事食	1月1日	赤飯・鶏肉野菜巻き・赤魚西京焼き・伊達巻・紅白なます・炊き合わせ 栗きんとん・雑煮風汁・干支饅頭
	特別食	1月2日	御飯・刺身盛り合わせ・茶碗蒸し・小松菜の和え物・味噌汁
	特別食	1月3日	御飯・天ぷら3種盛り・茄子のポン酢炒め・白菜とカニカマの和え物・さつま汁
	リクエスト	1月9日	(月華)袱紗寿司・かき揚げ・肉じゃが・お吸い物・オレンジ
2月	行事食	2月2日	海苔巻&玉子巻・いわしの煮付け・菜の花の辛子和え・鬼除け汁
	特別食	2月14日	チキンライス・2種のソース・いちごババロア・コンソメスープ・チョコプリン
	リクエスト	2月6日	(瑠璃)豚汁うどん・いなり寿司・かぼちゃと小豆のいとこ煮・みかんケーキ
3月	行事食	3月3日	ちらし寿司・茶碗蒸し・菜の花のお浸し・お吸い物・桃ゼリー
	リクエスト	3月6日	(ほとり)穴子のひつまぶし風・天ぷら・いんげん胡麻和え・味噌汁・いちごロールケーキ

防災委員会議目標

【非常時の役割分担及び実行内容を明確にし、誰でも確実に実行できるようにする】

- ① BCPに基づく防災教育・訓練を行い、実際に災害が起きた際に動くことができるようにする
- ② 非常時に備えた物品の確認を随時行う。(非常食、懐中電灯、屋上燃料、倉庫整理 等)
- ③ 毎月の防災チェック表に基づき行う事で、ユニット内の災害を未然に防ぐと共に職員の意識向上を図る

防災委員会報告

- ① BCP が義務化になったことに伴い、委員会を通して防災だけではなく、実際に災害にあった場合に復旧と同時に事業の継続をどのように行っていくかという視点が求められるようになったことを説明し、防災委員としてBCPの内容の把握し、基本方針や発動基準について周知を行っていくこと。また、日頃からの備えが重要となる為、毎月の防災チェックを引き続き行うよう委員としての役割の確認を行った。

・日中想定火災による避難訓練(R6.8.20)

3 階陽光ユニットの居室より火災が発生したという想定にて避難訓練を行った。

反省点としては、ご利用者様への説明が不足していた為、驚かれた方がおり再度説明を行うと理解され訓練に参加された。結果報告までは15分程度要したが、実際に避難完了していたのは5分程度早かった。火災ユニットとの境の扉を閉めるのが遅くなった。所在確認の札がない所があった等があがった。

改善点としては、勤務調整ができていなかった。避難時に排泄中の方がいた場合の対応について。報告場所が近い場合は、直接報告するといったことがあがった。

避難訓練後に消火器の操作の訓練を行った。

・夜間想定火災による避難訓練(R7.2.18)

2 階翡翠ユニットの居室より火災が発生したという想定にて避難訓練を行った。

反省点としては、サイレンの中で皆様に指示等を伝える難しさを知った。ヘルメットの着用を忘れてしまった。火災現場の直上階でない方のユニットから避難してしまった。避難する方の優先順位がわからなくなってしまった。居室の確認札や排煙窓を見落としてしまった。ご利用者様の口をタオルで塞ぎ忘れてしまった。

改善点としては、避難誘導の際に酸素をつけている方の対応はどうか。シーツごと引っ張って避難することができるよう日頃から備えておく。避難ルートの把握。排煙窓が壊れている所があった等があがった。

避難訓練後にまいにち防災の指導により消火器の操作及び散水栓の説明、操作を行った。

・水害時の避難訓練(R6.11.19)

大雨により都川が増水し、エレベーターが使用不能となった場合を想定した緊急時における搬送方法について実技を行った。内容としては、動画をみて搬送方法を確認した後に支持搬送・背負い搬送・背部から後方に移動させる方法、シーツ等を利用して移動する方法、前後から抱えて搬送する方法、左右から抱えて搬送する方法、4人でシーツを用いて搬送する方法の実践を

行った。

・BCP の研修及び訓練 BCP 研修(R6.6.14,26・R6.11.13,25)

6 月の研修では BCP の内容について参加者全員で一通り説明しながら確認を行った。11 月については、夜間に地震が発生した場合における初動対応として、研修と机上訓練を同時に行った。机上訓練の内容としては、グループに分かれて想定される内容について実際に行った際にどのように行動するかについて話し合ってもらった。

・BCP 訓練(R6.6.4,10)

2 日間に分けて、防災倉庫内の整理及び止水板設置練習を行った。止水板設置については、防災委員が止水板の種類と設置方法を知っておくことにより、実際に設置する際に他の職員に指導できるようにすることを目的として行った。

- ② 食料の備蓄については日清が毎年入れ替えを行っている。その他の物品については各自で行っている。施設全体の物品の備えについては十分とは言えない状況ではある為、今後のどのように備えていくかは課題となっている。
- ③ チェック表については毎月各自で点検を行い、提出してもらっていることで防災への意識を一定程度はもつことができていると考えている。今後も継続的に行っていく。

身体拘束委員会目標

【その人らしさの尊厳あるケアを実施する。】

- ① 認知症ケアの知識を深めご利用者様の行動を理解して行動の制限がない生活を心がける。
- ② 委員会内から出た内容を活かし浸透させて、ユニット全体の知識向上を行う。
- ③ 多職種で取り組む認知症ケアを実施する。

身体拘束委員会報告

今年度、委員長に就任して以来、「その人らしさの尊厳あるケアを実施する」という目標に向け、身体拘束防止の観点から接遇向上し重点を置いた活動を展開してきた。

接遇の基本を学び、施設全体でのセルフチェックアンケートの実施、身だしなみや挨拶の強化月間といった具体的な取り組みは、職員の意識改革と行動変容に一定の効果をもたらし、来年度以降の施設全体の取り組みへと繋がる成果を得られた。

委員会内においても、グループワークを積極的に導入することで、メンバーの主体的な参加と積極的な意見交換を促すことができた。また、業務効率化を見据えた ICT 化の提案と実践は、今後の委員会活動や施設運営に新たな可能性を創出するものとなった。しかし、委員長就任後の注力点が接遇向上に偏ってしまったため、本来の目標である認知症ケアに関する知識や、行動制限のない生活に向けた具体的な取り組み、多職種連携による認知症ケアの実践という点においては、十分な成果を上げることができなかった。

来年度は、今年度の反省を踏まえ、接遇向上の取り組みを継続しつつ、認知症ケアに関する知識習得と実践をバランス良く推進していく必要がある。

今年度導入したグループワークや ICT 化の取り組みをさらに発展させ、委員会内だけでなく、施設全体、そして多職種との効果的な連携を図るための具体的な計画を考え、実行していくことが必要で

ある。今年度の経験を活かし、より「その人らしさの尊厳あるケア」の実現に貢献できるよう、委員会メンバー丸となって取り組んでいきたい。

- ① 身体拘束防止の観点から接遇向上に重点を置いたため、認知症ケアに関する具体的な知識を深める活動や、行動制限のない生活に向けた取り組みは十分に行えなかった。

身体拘束防止に注力したことは一定の成果を上げたものの、本来の目標である認知症ケアへの取り組みが遅れてしまった。接遇向上は認知症ケアの基盤となる要素ではあるが、直接的な知識取得等には至らなかった。

来年度には接遇向上への取り組みを継続しつつ、認知症ケアに関する機会を計画的に設ける必要がある。見直し内容として、認知症ケアに関する委員会内での研修や事例検討を実施したりするなど、知識取得の機会を作る。

ご利用者の行動を理解するためのアセスメント方法やケア方法について、委員会内で検討する。多職種連携による認知症ケアの実践に向けて、情報共有研修などを検討する。

- ② 委員会内での議論や決定事項をユニットへ周知する取り組みは積極的に行った。「接遇セルフチェックアンケート」の実施や強化月間の取り組みは施設全体に浸透し、一定の知識・接遇向上に繋がったと考えられる。

反省点としては、委員会で検討した内容が、ユニット全体にどの程度浸透し、具体的な行動変化に繋がったかの評価が十分に行えていない。また、グループワークは委員会のメンバーの積極的な参加を促したが、その成果をユニット全体に共有し、活用する仕組みはまだ構築できていない。

今後は、委員会で決定した事項や、グループワークで得たものを、ユニット会議などで共有する機会を設ける。周知方法を多様化や委員会メンバーが、それぞれのユニットでリーダーシップを発揮し、知識浸透の促進役になれるように委員会メンバーと連携して取り組んでいく。

- ③ 委員会内で接遇向上に重点を置いたため、多職種との連携による具体的な認知症ケアの実践には至らなかった。

多職種との連携の必要性は認識していたものの、具体的な連携の機会を設けることができなかった。「その人らしさの尊厳のあるケア」を実現するためには、多職種の視点を取り入れた包括的なアプローチが不可欠であることを改めて認識する必要がある。

見直し内容として、多職種合同での認知症ケアに関する研修や事例検討を実施する。委員会をそれぞれの専門性を活かした情報共有の場として、日々のケアの見直しを行う。成功事例を共有し、多職種とのより円滑な連携体制を構築する。ICT 化を活用し、多職種間の情報共有を効率化することも検討する。

虐待防止委員会目標

【その人らしさの尊厳あるケアを実施する。】

- ① 定期的に虐待の芽アンケート(年 2 回)実施し委員会内で分析と課題及び改善計画を考え各ユニット、また施設全体で取り組みモニタリングと評価を行う。
- ② 認知症ケアの観点から正しい知識と判断力を持ち虐待の芽となる言動、態度、身体拘束の適

正を理解し質の良いサービスを提供するできる環境作りを行い、その人の「あたりまえ」の生活を提供する。

- ③ 施設内での不適切ケア、困難事例を委員会内で検討を行い共有する事で職員 1 人ひとりの意識を高め部署内で接遇、虐待について浸透させる。

虐待防止委員会報告

- ① 昨年度同様に年 2 回虐待の芽アンケートを実施した。今年度より委員会メンバーに集計結果をもとにグループディスカッションを行い分析と改善計画を検討してもらい委員会にて発表を行いそれをユニットへ持ち帰り周知を行っている。

メンバーにての分析と改善計画については今年はじめての試みであったがそれぞれがグループ内にて前回の集計結果を確認し意見交換ができ確実に意識が上がっており気づく事ができていく為今後施設職員全体の意識を上げる事が課題である為どのようにしたら尊厳あるケアが提供できるか、また接遇マニュアルを浸透できるか今後も委員会を通して発信していければと思う。

- ② 認知症ケアについて今年度は途中より身体拘束の委員長の変更にともないもともと立てていた目標の内容に一部変更があった為認知症ケアのについての取り組みが不十分であった為来年度は認知症ケアに力をいれて色々なツールを使用して取り組みを行って行く。

また接遇面については 1 年通して接遇向上に努めるため身体拘束委員会と協力し接遇についてのセルフチェックや強化月間を通して職員の意識改革を行ってきたが取り組みを行っている際は成果が見られていたが暫くすると元に戻ってしまう状況もある為継続して行えるように、またその人にとってあたり前になるよう継続していく。

- ③ 委員会内にて今年度は施設内にて実際に合った困難事例を各グループに分かれてディスカッションを行いご利用者様と職員の思いに両方の視点から検討を行い発表を行った。

事例検討についてはどのユニットでもある事例であった為色々な職種の職員が集まりそれぞれの視点で検討を行った為ディスカッションは話しが弾み普段話す事が少ない他ユニットとの検討は良いコミュニケーションの場にもなり回数を重ねるにつれて話しも進んでいた。またそれを自ユニットへ持ち帰る事で他の職員の意識もあがり虐待について知識向上につながった。

- ④ その他

今年度は新しい取り組みとして職員のストレスケアの取り組みを行った。実際に研修を行いアンガーマネジメントについて学び1か月間ユニットに持ち帰り取り組みを行いある程度の結果は残せたのではないかと。職員の知識の向上につながった。

ご利用者様の思いと部分では「私の思い。」という動画を通して自身の対応等に振り返る良い機会となった為来年度も委員会メンバーをはじめいろいろな職種の人を巻き込み、ICT化を取り入れデーターをもとに色々な職種や委員会と協力して施設として取り組みを継続していき施設全体としての意識を上げていく。

事故防止委員会目標

【事故対策・分析能力を高めてリスクマネジメントに努める】

- ① 継続して事例検討やKYTを実施し、様々な視点から問題点や対策を考え、事故を未然に防げる

ようにする。

- ② 施設内で出たヒヤリハット・アクシデントを毎月の委員会の場で分析・活用・検討を行い、その内容を共有し、各ユニットへ周知することで、事故防止に対する考え方を浸透させていく
- ③ 眠りスキャンを活用するなどし、ご利用者様の状態を把握し、多職種と連携をすることで広い視点から事故対策・分析能力を高めていく

事故防止委員会報告

- ① 年間を通して定期的に事例検討や、危険予知トレーニングを実践することができていた。事故に対する考え方についてもグループワークを行う事で、職員個々の様々な視点から問題点の提示や対策を考えることが出来ており、意見交換を行えたことで、自分以外の考え方や対応方法を学べていたと思う。

しかし「事故を未然に防ぐ」ということに関しては、事例検討等で学んだ内容を実際にユニットで活用出来ていたことが少なかった様に思う為、委員会メンバーだけではなくユニットの職員への事故対策・未然に防ぐことへの対応について浸透出来るような取り組みを考えていく必要がある。

- ② ヒヤリハットを上げる意識が職員全体に浸透してきており、毎月100件以上のヒヤリハットが提出されている。今年度からは、委員会内で各ユニットでおこっているヒヤリハットとアクシデントをユニット職員が確認・見直し出来る環境を作り、それを委員会の場所で発表する流れを作る事ができ、各ユニットでの事故等の内容を委員会全体で把握・共有する事ができた。また、共有できた内容に関して、似たような事故等が上がっていたり、改めて注意しなくてはならない事例が上がった際には、各ユニットに持ち帰り、情報や対策を活用したり、注意しなければならない点として周知する事もできてきたように感じる。

委員会メンバーへの事故防止に対する考え方の浸透については出来てきているが、ユニットへの浸透がまだまだと感じることもある為、今後ユニット職員へもしっかり考え方を伝えていけるよう努めていく。

- ③ 眠りスキャンが増台し、各ユニットでの使用台数も増えてきたことによって眠りスキャンを使っのご利用者様の状態の把握ができるようになってきていると思う。

委員会メンバーを中心にデータ等を活用できるようになってきているが、今後がユニットの職員へも活用方法などについて周知していく。

他職種との連携については、情報の共有は出来てきているように思えるが、対策等についてはまだ不十分であると思われる為、今後も継続して実施していく。

栄養・褥瘡委員会目標

【お客様主体で考えるサービスの提供・知識の向上】

- ① 「普通の生活」の把握
 - ・お客様お一人おひとりが、楽しめる食事の提供。
 - ・普通の生活を把握し、個々の食事を豊かにする。
 - ・最期のその時までその方の要望を叶えられるようにする。
- ② 褥瘡ケアの質の向上

・ブレイデンスケールを基に各項目の理解を深め、お客様お一人おひとりの状況に合わせた援助を行う。

③ 多職種、他委員会との連携

・委員会で学んだ知識をユニットにて共有を行う、ユニットの他委員や他職種との連携を行い、皮膚トラブルへの対応が取れるようにする。

栄養・褥瘡委員会報告

「普通の生活」を把握し個々に楽しめる食事についてはユニットによって差が出てしまったように思う。お看取りになられると個々の食事を強化している傾向にある為、日常から取り組めるように、個々をより理解していきたい。個々の対応が出来る時とそうでない時について、来年度は業務の整理も行いながらレクへ当てる時間を各ユニットで考えていければ良いと思う。リクエスト食では、「リクエスト食のあり方」を委員が理解しご利用者の要望を聞く事が出来、栄養士の協力もあり、提供する事が出来た。食レクに関してはご利用者様主体である事が当たり前であり、職員主体の食レクを行った場合は浮いてしまうような雰囲気になったと思う。

ブレイデンスケールの項目を掘り下げて理解する事で、褥瘡のリスクに早めに気づく事や、対応が出来たと思う。委員からの発言に関しても全体的にレベルが上がり項目に着目して対応していた。委員へ知覚の認知の体験や、可動性のポジショニングの体験などを行い、その項目の知識や感覚を印象つけられたと思う。アセスメントを見てリスクを検討するディスカッションについては着目点が栄養や可動性だけでなく、病気や薬を見て検討出来ていた。ディスカッションで他ユニット委員と意見交換をする事で発言しやすい環境や交流、新しい観点などを学べたと思う。褥瘡については、褥瘡0のユニットや剥離のみで治まったユニットがあり病気により褥瘡が出来てしまう方はいらっしゃる事もあるが褥瘡0を目指していきたい。

ブレイデンスケールの研修のパワポについては、医務とベースを作り副委員長(サブ)と協力して作成した。ポジショニング研修も同様に行った。ユニット内で排泄委員と協力し湿潤や臥床時間についてすぐに検討するユニットがあり、来年度は広めて行きたい。

来年度は栄養・褥瘡の内容について、委員の底上げを行って行きたい。

① ・毎月は、ご利用者様主体の食レクが行えなかった。ご利用者様の ADL の低下もあり日々の関わりも考えていく必要がある。

・食レクに関して安全面での指摘があった。他職種へも協力を依頼し施設全体で取り組んで行きたい。

・食事量が低下している方に対して食事が出来るよう、楽しめるよう来年度は他部署と協力していきたい。

・食事形態見直しについては、常に検討していきたい。

・ご利用者様主体の食レクを行う事が出来なかった。

・食レクについてご利用者様が楽しめるように努められた。普段の食事でも楽しめるように工夫が出来た。ご利用者様の食事形態を見直す事が出来た。

・リクエスト食については、ご利用者様への聴き取りの方法も向上し栄養士とも協力をし、好評を

頂いている為継続していきたい。

- ② ・表皮剥離や皮膚に赤みがある際は、早期発見し早期治療を今後も職員と共有し目指して行きたい。
 - ・体調不良からの食欲低下による褥瘡、活動されていた方の体調不良で臥床時間が長く褥瘡を発生させてしまった。トイレへご自身で行かれる方の剥離を見逃してしまった。職員の観察不足や思い込みを無くしていきたい。
 - ・ブレーデンスケールを勉強し、理解が出来た。委員の知識も上がり項目ごとに検討したり対策を立てられるようになった。スケールの項目により全職員間で共有していきたい。
 - ・ポジショニングの研修を来年度も行いたい。体験した事でより理解が出来た。
- ③ ・医務、介護と連携し個別的な援助が出来ていると思う。(医務より)
 - ・皮膚のトラブルについて、職員からの報告がすぐにあり対策を立てられたと思う。スケールの理解が深くなっている。(医務より)
 - ・ユニット内で、皮膚トラブルがあった際に湿潤について、排泄委員とケアの見直しを行い、協力して取り組みが出来た。
 - ・皮膚トラブルがあれば写真を撮りケアの見直しを行い、排泄パッドの変更も考え取り組めた。今年度褥瘡はあまり出来なかった。

感染委員会目標

【非常時の役割分担及び実行内容を明確にし、誰でも実行できるようにする。】

- ① BCPに基づく教育・訓練を行い実際に感染拡大が起きた際に実行できるようにする。
- ② 非常時に備えた物品管理を行う。
- ③ 毎日の感染症予防対策を実施し、感染拡大が最小限に抑える事が出来るように周知する。

感染委員会目標報告

BCPに関しての訓練や研修に具体的に取り組みだしたのは今年度からである。自身として手探りで始めたと言って良い状況のため教育内容が教科書的なところで終わってしまっている。

次年度においてはこの反省を生かし、施設の特徴を踏まえた訓練・研修が行えるように企画立案が必要と認識している。また感染症予防で一番大切な日常の感染症予防対策の周知についても次年度も取り組み事項に挙げ、職員へのお落とし込みを継続していきたい。

- ① BCPに基づく教育・訓練を行い実際に感染拡大が起きた際に実行できるようにする。感染症発生時の実行内容については訓練や研修で落とし込むことが出来ている。ただし、総評でも述べたように日常生活全体の実行内容に関しては教育内容に含んでいなかったのが次年度は広い視野で考えていく必要がある。
- ② 非常時に備えた物品管理を行う。事務所職員の協力もあり現時点で可不足なく備えが出来ている。2F3Fの倉庫に感染防護具セットを作りいつでもだれでも準備出来るように設置する。
- ③ 毎日の感染症予防対策を実施し、感染拡大が最小限に抑える事が出来るように周知する。職員へ手洗いの重要性や換気・環境衛生について周知し既に日常業務に取り組んでいる。ただ、必要性を定期的に委員会で職員全体へ伝え続けていかないと、自然と風化してしまうため、継

続いていく必要がある。

排泄委員会目標

【知識・意識・技術のブラッシュアップ 基本マナーの継続】

- ① お客様お一人おひとりの「普通の生活」を理解する。接遇を意識し個々にあった排泄を実践、継続していく。
- ② 昨年までの内容を振りかえり復習することで、理解を深め技術・知識の向上ブラッシュアップを目指す。
- ③ 他委員会と連携を図り、サービスの質の向上を目指す。

排泄委員会目標報告

- ① ・排泄に関するアセスメントシートを作成。まずはご利用者様お一人おひとりを知ってもらうため、年度初めにアセスメントを実施。アセスメントを基に取り組みをおこなっていくご利用者様を決定し取り組みを実施した。日々の業務の中で個々のご利用者様の排泄パターンを把握し、失禁を減らしていくという方向で「普通の生活」に向けて取り組みを行った。取り組みについては成功事例が数件あり、普通の生活に近づけることが出来たと思っている。また、アセスメントシートを記入するにあたり改めて、ユニットのご利用者様個々を理解する機会も作れた。
・接遇については接遇マナーの振り返りを行ったが、ユニット内で意識が薄れていると感じる部分もあり委員会の取り組みとして不十分さを感じた。
- ② ・取り組みをおこなうにあたり最初に排泄に関する知識【排尿について】の研修を2回に分けて行った。委員会が進むにつれ、再度説明が必要と思われる部分の復習を実施した。同時に委員の取り組み内容報告の際に研修内容の知識を都度伝え知識の定着を行った。また、昨年度の反省を活かし取り組み内容報告だけでなく、2・3か月に1回程度、陰部洗浄やパット交換の基礎、湿潤について、オムツ・パットの特徴について研修を実施した。委員会内の雰囲気変化を図る為、いつもの委員会のようにイスに座ったままではなく、前に物品を準備し前に集まって発言しやすいような雰囲気作りを意識しておこなった。
- ③ ・事故委員長に委員会に参加していただき、眠りスキャンの基本性能、活用の仕方について伝えていただいた。実際に、ユニット内での取り組みに繋がれたところもあった。また、オムツ交換の基礎や湿潤、摩擦の内容も委員会内で行い昨年に引き続き栄養褥瘡委員会と連携を図れた。

労働衛生委員会目標報告

【ご利用者様へのサービスの質・接遇意識の向上 職員の健康状態を保ち、働きやすい環境を整備する。】

- ① 協力ユニット体制の構築・働きやすい環境整備
・協力体制構築により、職員の急な欠勤に柔軟に対応する事が出来る。
・ユニットのデメリットである狭い空間や職員関係に対して、協力体制構築によりストレス緩和を可能にする。
・ユニットの残業時間を把握し、各ユニットの業務見直しを随時行い残業時間数を少なくする。
- ② 職員の健康維持・促進を行う。

- ・定期的な健康診断、ストレスチェックの実施をする。
- ・定期的な腰痛体操の実施、個別に腰痛体操の声かけや促しをする。

③ 休暇取得の管理

- ・各職員の有給休暇、特別休暇の管理を行う。
- ・各ユニットでの休暇取得状況を把握し、業務見直しを随時実施する。

労働衛生委員会目標報告

- ① ・協力体制が構築する事が出来ているユニットは、急な欠勤(体調不良やコロナ感染対応等)があった場合でもスムーズに対応する事が出来た。協力体制構築により、配置職員 10 人(1 ユニット5人体制)で様々な対応が可能になった。
- ・協力体制が構築され、狭い空間ではなくストレス緩和が出来た。職員数が多くなった事での、デメリットもみられた。
 - ・協力体制構築が出来ている為、残業時間が少なくなった。
 - ・協力体制構築が出来ているユニットと出来ていないユニットでの差が大きく残業時間や欠勤時の対応、ストレス緩和に大きく差が出てしまった。
- ② ・定期的に健康診断・ストレスチェック・腰痛体操を実施した。
- ・働く職員のストレス緩和の為に、面談の機会や時間を多く実施した。面談機会が多くなり職員の声を聞く事が増え、業務改善や心の安定に繋がった。ストレスが原因で疲れてしまった職員に対して、2～3 週間の休養希望を確認し希望する職員には休養を与えたことにより、リフレッシュして職場に復帰する事が出来た。
 - ・各ユニットや部署での腰痛体操が、しっかり出来ていない事も見られた。コロナやインフルエンザに感染したご利用者様や職員もあり、健康維持が難しいと感じる状態であった。
 - ・産業医の医師が変わり、職員に対しての相談機会や施設内見学があり医師に相談する職員もいて、職員の心の安定に繋がった。
- ③ ・定期的に各部署に対して、有給休暇や特別休暇の取得について促す事が出来た。職員やユニット状況により取得が難しい場合は、業務の見直しを積極的に行うように所属長に促しを行った。
- ・定期的に有給休暇や特別休暇を取得出来る、申請取得しやすい環境整備が出来た。有給休暇や特別休暇が取得しやすい環境整備が出来、より働きやすい環境になった。
 - ・退職者が出た際や休養する職員がいる場合に関しては、定期的に有給休暇や特別休暇を取得が難しいユニットや部署もあった。

日付	開催ユニット	内容
R6.4.20	水晶	花見（ユニット内を花見風に装飾しおやつの提供）
R6.4.27	珊瑚	お花のシールで手形アートを作ろう！（手形の作成、おやつの提供）
R6.5.5	瑠璃・琥珀	瀬又鯉のぼり見学
R6.5.6	水晶	菖蒲湯
R6.5.12	珊瑚	野菜の苗を植えて夏野菜を作ろう！
R6.5.15	珊瑚	春のおでかけ（緑化植物園へ外出、園に帰ってからファーストフードのポテト提供）
R6.5.19	瑠璃・琥珀	3、4、5月ご利用者様合同誕生日会（カラオケ、プリンの提供）
R6.5.30	翡翠	家庭菜園を楽しむ（トマト、なす、ピーマン、季節の花のプランター作成）
R6.6.13	月華	お好み焼き、焼きそば作り
R6.6.21	瑠璃・琥珀	フルーツ盛とふわふわホットケーキカップを作ろう
R6.6.21	翡翠	アイスパーティー
R6.6.24	真珠	ソーメン、コンビニスイーツを食べよう
R6.6.24	煌星・陽光	多国籍のランチパーティーを楽しもう！（インドネシア・ベトナム料理の提供）
R6.6.30	珊瑚	ふわふわホットケーキ作り＆七夕飾りつけ
R6.6.30	水晶	ファーストフード出前レク
R6.7.1	施設全体	周年祭（事務所職員がユニットへ行き、一緒に昼食を食べ、おやつのサーブ）
R6.7.14	2Fフロア	スイカ割り、綿菓子の提供
R6.7.27	珊瑚・真珠	ゲーム大会（ボール落とし、ホールインゲーム、ピンポン玉を掬いだせ、カラーボール釣り）
R6.8.22	翡翠	食べたいケーキを好きなだけ！（ケーキバイキング）
R6.8.24	1Fフロア	珊瑚、真珠、ほとりの家合同夏祭り
R6.8.27	水晶	フレンチトースト＆フルーツアイス
R6.9.8	2Fフロア	納涼会（屋台、お神輿、かき氷）
R6.9.16	2Fフロア	敬老会（ビンゴ大会）
R6.9.16	瑠璃	誕生日会＆敬老会（カラオケ）
R6.9.16	真珠	敬老会（手形作りと秋らしい装飾）
R6.9.16	珊瑚	敬老会（ビンゴ大会）
R6.9.16	施設全体	敬老の日 ご挨拶まわり ご長寿のお祝い
R6.9.30	珊瑚	クレープ作り
R6.10.23	珊瑚・真珠	珊瑚・真珠合同運動会
R6.10.27	水晶	レアチーズケーキ作り
R6.10.31	真珠	ハロウィンパーティー
R6.11.9	瑠璃・琥珀	焼き芋レク（珊瑚・真珠参加）
R6.12.15	珊瑚	クリスマス会（スノードーム作り＆マリービスケットケーキ作り）
R6.12.15	2Fフロア	クリスマス会（パンケーキ作り、ハンドベル演奏）
R6.12.21	真珠	クリスマス会（カップケーキ作り、丸鶏の提供）
R7.1.16	月華	ちゃんちゃん焼き作り
R7.1.29	翡翠	お誕生日会（風船バレー、プリン・ケーキの提供）
R7.2.3	珊瑚・真珠	お正月イベント（寿司の出前、おみくじ、かるた）
R7.2.3	施設全体	獅子舞
R7.2.23	翡翠	2月誕生日会
R7.2.26	水晶	どら焼き、プリンアラモード作り
R7.3.9	瑠璃・琥珀	2月、3月合同誕生日会（カラオケ、ケーキ）
R7.3.16	月華	どら焼き作り
R7.3.16	翡翠	3月誕生日会（季節のお花を観賞しながらおやつの提供）
R7.3.22	珊瑚	手形作りと春らしい飾りつけをしよう